

## はじめに

授業改善が求められるなか、国語科の先生方からは次のような声が聞かれます。

- ・どこから改善していけばよいか分からない。
- ・教員自身が身に付けなければならない知識が多すぎる。
- ・教科指導以外にもやることがいっぱい余裕がない。

これらの声の背景には、「授業改善はしたいが、」という共通の思いがあります。そこで、福島県教育庁義務教育課では、国語教育だよりを発行し、「日常の授業」を改善するヒントになる情報や指導方法等をお知らせすることにしました。特徴は2つです。

- ① 短時間で読むことができ、「試しにやってみよう」と思える内容であること。
- ② 年に数回の研究授業ではなく、「日常の授業」の改善に役立つ内容であること。

日常の授業で活用できる内容をお届けしますので、ぜひご覧ください。

## その1 もっと対話を充実させたい！

「もっと対話を充実させたい。」現場の先生方の一番多い願いだと思えます。子どもどうしが積極的に対話し、考えを深める姿。それが実現すれば、やってみたい授業は色々あるのに、目の前の子どもは対話に消極的。少しずつでもここを改善していきたいですね。

### 【子どもたちの心の声】



- ・自分の意見に自信がないから、話したくないな。
- ・自分の考えなんて特にないから、いつもどおりAさんの意見に賛成しておけばいいや。
- ・どうせ話し合わなくても、最後は先生が答えを黒板に書くから、それを写せばいいや。

### 【対話を充実させるポイント】

- ① 「自分の考え」が対話において役立ったという経験をさせること。
- ② 「相手の考え」との違いが見えること。
- ③ 多様な考えが認められるものであること。（授業者が想定する「唯一解探し」にしない）

### 【例えばこんな発問はいかがでしょう？ ～文学的な文章を扱った授業の例～】

- ① じさまの腹痛は演技である。「YES」か「NO」か。（「モチモチの木」）
- ② もし、クジャクヤママユがつぶれていなかったとしたら、「僕」はエーメールに謝罪したか、謝罪しなかったか。（「少年の日の思い出」）
- ③ メロスの「責任感」に評定を付けるとしたら、あなたは「1～4」のどれにするか。（「走れメロス」）

文学的な文章というと、「このときの〇〇の心情は？」という発問がよく見られますが、実は【子どもたちの心の声】のように考えている子どもが一定数います。

上記の発問例のように自分の立場（解釈）を選択させ、そう考えた根拠と理由を簡潔に書かせてみましょう。国語に苦手意識がある場合は、立場だけでもOKです。人によって、立場・根拠・理由それぞれの違いが見え、対話が面白くなります。子どもには、相手の話を聞いて立場を変更してもよいし、根拠や理由を追加・修正してもよいと伝えましょう。

先生が、わくわくした表情で子どもの対話を聞くのもポイントです。



※ 実施後は振り返りを行い、気付いた点や改善できそうな点をメモしておきましょう。

## 【資料集】

ここでは、様々な資料等を御紹介します。普段使っている端末にダウンロードするなどして、御活用ください。データで手元においておくと非常に便利です。

【小学校学習指導要領解説国語編】



【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語】



【中学校学習指導要領解説国語編】



【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語】



【令和6年度福島県学校教育指導の重点】



【ふくしまの「授業スタンダード」】



【令和6年度ふくしま学力調査報告書】



【令和6年度ふくしま学力調査報告書(概要版)】



【令和6年度授業改善グランドデザイン】 **おすすめ!**



令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析を基に、「ふくしまの強みと課題」や「授業改善のポイント」を掲載しています。特に「授業改善チェックリスト」は、日々の授業改善にぜひ御活用ください。

【ふくしまの「家庭学習スタンダード」】 **おすすめ!**



児童生徒の学力向上のためには、「自己マネジメント力」を育むことが大切です。「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を基に、家庭における学習環境や生活習慣づくりの重要性について、改めて保護者と共通理解を図ってみましょう。